

## 「不当な裁判」

キリストが十字架に架けられたその年のその日、父なる神は最初の人々が罪を犯して以来備えて来られた計画の最終段階に入られた。それは全ての人の救いのため、神の小羊として、御子である主イエスを罪が無いまま呪いの木に架け、殺すことである。

ユダヤの祭司たちは、何としても主イエスを死刑に定めるため、過越の祭の最中は禁止されている裁判を強行し、捕らえた主イエスの中に罪はないかと探した。しかしいくら探しても、弱い人々を愛し、癒し、慰める主イエスに罪を見出すことは出来なかった。

反対に、ローマの総督ピラトは主イエスの釈放のため努力したが、結局無駄であった。

その中で、神の御子はされるがまま黙って、十字架に殺されるのを待っておられた。

父なる神は汚れた人間の心 一裏切りや権力者の妬み、優柔不断な心さえも全て用い、御子を見捨て、罪人を救う計画を遂行されたのである。それは私たちの罪を御子に負わせ、私たちを赦すためである。何という神の愛だろうか。

### [聖書の学び]

時の大祭司はカヤパであったが、義父アンナスが大祭司退官後も権力を持っていて、「大祭司」と見なされていた

#### I、ユダヤ側の裁判

1、アンナスは何か罪はないかと尋問しましたが、主イエスはアンナスに何と応えておられますか？（ヨハネ 18：13～24）

2、深夜、カヤパの私邸で、最高法院のメンバーによる審議が行われました。

普通、法律を犯すとか、誰かに危害や損害を与えたという現行犯や、訴える者がいて、人は捕らえられます

① 主イエスに対する裁判の目的は何でしょうか。（マタイ 26：59）

② 言葉における主イエスの罪の証拠はみつかりませんでした。最後にカヤパは主イエスに何と尋ねましたか？（マタイ 26：63）

② 主イエスはどのように答えられましたか？（マタイ 26：64）

3、夜明直後、議員たちは再度最高法院に招集され、前夜の審議に基づく公式裁判が行われました。主イエスの罪状は何ですか？

（ルカ 22：66～71）

## Ⅱ、ローマ側の裁判

(ルカ 23 : 1～71、ガラテヤ 3:13、申命 21:23)

1、公式の死刑である十字架刑を実行する権限のないユダヤ人たちは、ローマ総督ピラトの処に主イエスを連れて行きました。

①ピラトに向かって言われた偽りの主イエスの罪状は何でしょうか？

(ルカ 23 : 1～5)

②ガリラヤ出身の主イエスは、ガリラヤ国主のヘロデの処へ連れて行かれました。ヘロデは主イエスに何か罪を見つけられましたか？(ルカ 23 : 6～12)

2、ピラトは罪がない主イエスを何とか釈放しようと試みました。

①ルカ 23:16… 鞭打ちで苦しむ姿を見れば、ユダヤ人たちの気が済むだろうと思った

②マタイ 27:15… 群衆の前に主イエスを立たせ、群衆にバラバより主イエスを釈放してほしいと言ってもらおうと思った。

3、ピラトは釈放しようと努力しましたが、無駄でした。

ユダヤ人たちは主イエスについて彼に何と言いましたか？

(ヨハネ 19 : 7)

## Ⅲ、十字架刑の判決

(最終的判決を言い渡す場所で…)

1、ピラトは最後に権威について語りました。主イエスを十字架に架ける権威を持っておられるのはどなたなのでしょう？

(ヨハネ 19 : 10～11)

2、十字架刑が下されイザヤ 53:4～12 の預言は成就しました。しかし神様のみこころは、主イエスの復活にあります。

\* **ディスカッション** (心を開いて互いに話し合ってみましょう)

Q. 今日の学びについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。